


The legend of OBASAN



ここにいます
「がん電話情報センター」
あなたの知るを助けます

ancer

(全国一律の電話料金でご利用いただけます。
PHS、一部のIP電話からはご利用いただけません。)

おーこここにじょうほう
0570-055224
受付時間：平日 12:00~17:00
(土日・祝祭日・年末年始・夏期休業を除く)



NPO法人血液情報広場・つばさ理事長、
がん電話情報センターCTIS相談主任、
日本骨髄バンク(骨髄移植推進財団)常任理事

橋本 明子

「伝説のおばさん」のオススメ 18

人生を大切に 生きるあなたへ。 エールを。

Akiko Hashimoto



水族館で、アナゴや海鰻などが砂からよきにょき顔をを出しているような暗い水槽を眺めて、何しているんだろう、この生き物たち…、等と思いつながら何時間も過ごすという、かなりマンアックな趣味がある。

『ゾウの時間、ネズミの時間』(本川達雄 中公新書)の中に、「極小の生物にとっては環境そのもの(空気や水)が粘る」とあって感動させられた。

海底の生き物たちは、与えられた時間を、私とはまったく別の感覚で生きている。私という人間が自力では決して出会えない、そんな彼らに会わせてくれるところ、それが水族館というわけだ。それなりに長く生きてきたが、私が実感をもって「わかった」と言えることは少ない。

確かにわかった、それは「時

は必ず過ぎる」ということだ。当たり前的事実かもしれないが、今、さらさらと時が流れる音が聞こえるようになったことを感じる。でもそれで焦るか、という違う。時は金なり、なんていう事とも違う。

がん電話情報センターで、ご自分が、あるいは最愛の家族が生きられる時間を限られてしまったというお話をたくさん伺う。こうしている時にも、絶望の淵を歩いている人もいらっしゃる。

しかし、もう長くないとはいえないきなりその時間が来てしまうのではなく、1日は24時間、一週間は7日あり、1年は365日ある。人生観に沿って優先させるべき事、そしてまたやはり時間が切られたという医学的事実は無視しないで、場合によっては思いきって捨てるべきこと等を見据える勇氣(こころの余裕)を持ってほしい。そう、私が今だからできるようになったことは、貴重な時間の中で人生を大切に生きようとしているあなたにエールを送ることだ。今日は必ず、明日の昨日となる。